

行革AI活用プロジェクト「AI（アイ）プロ」の 取組状況と今後の方向性について

内閣官房 行政改革・効率化推進事務局

1. 「AI（アイ）プロ」 開始の背景と方向性
2. レビューシートのデータ分析及びAIの利活用等に関する調査研究について
3. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソンについて
4. 今後の方向性について

1. 「AI（アイ）プロ」 開始の背景と方向性

2. レビューシートのデータ分析及びAIの利活用等に関する調査研究について

3. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソンについて

4. 今後の方向性について

「AI（アイ）プロ」開始の背景と方向性

- 社会が複雑化し、行政ニーズが多様化する一方で、人材等のリソースが限られる中、組織全体の**生産性向上・省
力化推進に対応した新しい時代にふさわしい行政**を目指すとの問題意識の下、昨年度より、**EBPMやデジタル・
AIの活用による政策立案の質の向上**を目的に、これからの行政改革の在り方を検討。
- この一環として、進展するAI技術を用いたレビューシート等のデータの更なる活用方策等を検討するため、**事務局横
断的なプロジェクト（「AIプロ」）**を開始。

行政改革推進会議（令和7年1月15日）
資料3 抜粋

①レビューシート等の質の向上、②AI技術の活用、③RSシステムのUI/UXの改善、④「見える化」の充実・強化
に向けて、以下の3つの取組を進めていく。

1. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソン

テーマ

第1弾（案）：
行政事業レビューシート作成・点検に関する
各府省庁の課題を解決

参加者

課題を持つ：行革事務局、各府省庁(P)
解決する：エンジニア等

期間

事前に随時 課題の募集
春頃（P）アイデアソン・ハッカソン

2. レビューシートのデータ分析及び AIの利活用等に関する調査研究

項目

A) レビューシートの質の分析
B) レビューシートの質の向上におけるAIの
活用可能性の調査
C) 他システムとの連携の可能性、効率化、
データの正確性の確保に向けた調査
D) AI活用及び他システムとのデータ連携を
前提としたデータ構造のあるべき姿の検
討
E) 次期RSシステムに取り込むべき必要事
項の整理

等

3. RSシステムの機能改修

項目

A) 入力機能の改善や作成支援機能の強
化
B) データ利活用のための検索機能の強化
C) 「見える化」の充実・強化のための機能
追加

等

1. 「AI（アイ）プロ」 開始の背景と方向性
- 2. レビューシートのデータ分析及びAIの利活用等に関する調査研究について**
3. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソンについて
4. 今後の方向性について

AIを活用したレビューシート等の質の評価・分析について

- 予算事業のEBPMのより高度な実践に向けて、レビューシート等※の記載内容に関する課題を把握するため、すべてのレビューシート等をAIを活用して評価する「レビューシート等の質の評価・分析」を試行。

※基金シートを含む。

評価・分析の流れ（2025.4～8）

検証ポイント案の抽出

①ガイドブック等を基に、評価のための検証ポイントや評価基準を定義

《検証ポイント》 33項目

現状と課題の分析：11項目
ロジックモデルの分析：12項目
点検・改善の分析：10項目

《評価基準》

高スコア：検証ポイントを全て充足
⋮
低スコア：記載が不十分
(必要な記載がないものを含む)

検証ポイント・評価基準の磨き上げ

②アクティビティの内容等に偏りが出ないように抽出した約100シートを、検証ポイント等に基づいて、まずは人間が評価。評価結果のズレを踏まえ、検証ポイント等の修正を行ったうえで、再度評価することで、検証ポイント等を磨き上げ

目検担当者：14名（行革8名、受託事業者6名）
実施期間：約2か月

《検証ポイント》

現状のシートの記載項目からは評価できない項目（8項目）を除いた25項目に絞り込み

評価AIの構築・精度向上

③約100シートを、25の検証ポイント等で生成AIが評価。AIの評価と人間の評価が近づくよう、プロンプト等を改善

《検証ポイント》

現時点では20の検証ポイントについて、人間と同等レベルの評価が可能と判断。

20の検証ポイントに基づいて、すべてのシート（約5,900シート、2024年度分）を改善後のAIが評価
その結果を元に全体傾向を分析（2025.8～）

生成AIによる全シート評価・分析結果について

- 全シート（約5,900シート:レビューシート約5,700件、基金シート約200件）の傾向として、検証ポイント20項目のうち、
- ・ **記載の形式面に係る検証ポイントについては全体的に高スコア**であり、作成要領等をもとに**記載の形式については一定程度浸透してきている**と考えられる一方で、
 - ・ **アウトカム、アウトプットの設定など内容面の記載や、定量データ・エビデンスに基づいた点検結果、改善方針の記載に係る検証ポイントについては低スコア**が目立った。

検証ポイント一覧（20項目）		事業類型によらず全体的に高スコア	一部の事業類型において低スコア	事業類型によらず全体的に低スコア
現状・課題の分析	記載の形式	現状課題欄/事業目的欄への記載、5W1H to Whomの網羅、政策/法令欄への記載等		
		現状・課題の分析に係る記載項目における単語の定義の統一、具体的な記述等		
	現状・課題	最新の社会情勢の変化を踏まえた具体的な課題の整理		
		事業と関連する定量データ、エビデンスに基づいた課題設定		
ロジックモデルの構築	事業の目的	現状課題を解決した姿として有効な事業目的の定義		
		現状課題の変化を踏まえた事業継続の正当性・政策手段の妥当性		
		事業概要の実現に必要なアクティビティの網羅		
		事業概要からアクティビティへの網羅的なブレイクダウン、5要素+つながり欄の記載等		
	記載の形式	予算執行額の欄への記載		
		ロジックモデルの構築に係る記載項目における単語の定義の統一、具体的な記述		
点検・改善	ロジックモデル全体	アウトプット/アウトカムの区別、複数段階のアウトカムの因果関係説明、指標の選定理由の説明、事業目的の実現へのつながり		
	アウトプット/アウトカム	アウトプット/短期アウトカムの "炭鉱のカナリア" としての有効性		
		目標水準の算出根拠の提示、実現可能性と挑戦性を鑑みた目標水準の検討		
		支出先や契約先、資金の流れリスト、費目・用途の記載		
		一者応札/随意契約となった場合の理由の記載		
	記載の形式	自己点検、レビュー推進チーム点検、所見を踏まえた改善等の記載		
		点検・改善に係る記載項目における単語の定義の統一、具体的な記述		
		計画変更や目標修正のプロセスの定義		
	モニタリング	計画変更や目標修正のプロセスの定義		
	自己点検・外部点検	アウトカムの達成率を踏まえた点検評価結果の判断		
	改善の方針	定量データ、エビデンスに基づいた点検結果や改善の方針の記載		

評価・分析結果から明らかになった課題

- 事業類型や特性等を踏まえた低スコア箇所の詳細分析や、AIによる評価の試行により得られた示唆から、主に**4種類**の課題カテゴリに対して**12の主要課題**が明らかになった。

事業特性に基づく 記載の形骸化

- ① 長期的な継続を前提としている事業であることにより、過去の記述の踏襲が常態化/詳細検討が形骸化する
(例：施設整備、設備導入関係の事業 等)
- ② 事業実施が必須とされているため、評価の必要性が感じられず記載が形骸化する
(例：国際機関向けの分担金・拠出金 等)
- ③ 定型的な事業内容であることにより、個別の課題やロジックモデルの整理・改善が省略される
(例：システム開発・運用関係の事業 等)
- ④ 事業の実施範囲が政府機関内部に閉じており、社会的ニーズや情勢の変化との関係が希薄になる
(例：政府内部向けのシステム関係の事業 等)
- ⑤ 元となる事業（親事業）にシートが紐づいているため、一部の記載が省略され、記載が形骸化する
(例：総合的な事業に紐づく個別の事業 等)

事業特性に基づく 記載の難しさ

- ⑥ 政策設計や制度整備自体の成果が指標の中心となりがちで社会的インパクトやロジックモデルが記載されにくい
(例：法制度の整備関係の事業 等)
- ⑦ 事業内容が抽象的で課題・ロジックモデルの具体化が難しい (例：国際協力関係の事業 等)
- ⑧ 事業の詳細が非公開であることにより、課題・ロジックモデルの具体的な記載が難しい (例：外交関係の事業 等)
- ⑨ 実績データの蓄積が不十分で、定量データや適切なエビデンスの提示が困難 (例：新規に開始したばかりの事業 等)

行政事業レビュー の運用の難しさ

- ⑩ レビューの目的や評価観点の理解が不十分で、レビューの対応自体が形骸化する
- ⑪ レビューシート等の記載の質のあるべき姿として重要な観点であっても、現状の記載項目では評価困難/記載が難しい

AIによる評価 の限界

- ⑫ 人間にとっては読み解き可能な用語や記載・検証ポイントであっても、AIが正確に理解し評価することは難しい

(参考) AIによる分析を行う際の留意点

1. ノウハウ・現場の知見の形式知化が必要

- ・ 行政事業レビューや、レビューシート等の記載において何が求められるのかの観点を明文化することが最初のステップ
- ・ 評価の際、人によって基準がブレることも多く、業務に精通したメンバーが一定の工数を投下できる体制が必要

2. 人間による評価とAIによる評価を繰り返しアジャイルに見直す必要

- ・ 人間の暗黙の背景知識を補うため、業務に精通したメンバーと密なコミュニケーションをしながら、プロンプトを改善するために相応の工数を確保しておく必要
- ・ 業務利用には精度の確保が重要だが、精度を上げるほどコストは増大
- ・ AIを有効に活用するためには、AIの精度向上と併せてそれを使用する人材のリテラシーの向上も重要

3. AIによる評価結果はそのまま活用できず、活用するには人間が解釈・追加分析を行う必要

- ・ 質が低いとされたレビューシート等は、個々の事情が存在するケースも多い
- ・ 質の分析結果から、（政策立案者による）意思決定・改善に接続して、初めて価値が出る

4. レビューシート等の「記載の質」の向上ではなく、あくまでも「事業の質」の向上が最終目的

- ・ 評価分析結果に対する改善策は、記載の整備を目的化しないよう留意し、常に事業の質向上につながるかを軸に検討する必要
- ・ 業務負荷の増加にも留意する必要

1. 「AI（アイ）プロ」 開始の背景と方向性
2. レビューシートのデータ分析及びAIの利活用等に関する調査研究について
- 3. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソンについて**
4. 今後の方向性について

行政職員向けAIアイデアソン・ハッカソン

- デジタル庁の「AIアイデアソン・ハッカソンシリーズ」の一環として、5月16日（金）に**行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソン**を開催。
- 上記イベントには、各省庁職員（※¹）が参加し、**行政事業レビューシートの作成や点検等に関する困りごとや課題**に対し、事業者4社（※²）のエンジニアの協力を得て、**AI等を活用した具体的な解決策**を検討。
（※¹）当日参加省庁：法務省、厚労省、国交省、環境省
（※²）アマゾンウェブサービスジャパン、グーグル・クラウド・ジャパン、日本オラクル株式会社、日本マイクロソフト株式会社
- 行政事業レビューに携わる各省庁職員の困りごと・課題に対して、以下のような解決策（プロトタイプの開発）が示され、AIの活用による行政の業務効率化や質の高いサービス・政策の実現に向けた可能性が示された。

当日の解決策例

- レビューシートを作成要領やガイドブックに基づいて点検・評価し、修正案を提示するなど、**シートの記載内容の質を高めてくれるチャットボット及び評価表**。
- 既存資料との整合性の照合、既存データの加工など、**レビューシートのデータの入力補助**を行うツール。



行政改革学生アイデアソン・ハッカソン

- レビューシートデータを元に、**データの利活用法や政策立案の新たな考え方などを、学生の柔軟な発想を取り入れて探索**するため、8月に**Hack Day**（開発作業）、11月14日に**Award Day**（発表・表彰）を開催。
- **Award Day**では、Hack Dayにおいて選ばれたファイナリスト5チームが、AI等の技術を活用したデータ利活用に関するアイデアやプロトタイプに関する**最終成果を発表**。選考委員（※）の審査により**3部門賞を決定・表彰**。

（※）選考委員（敬称略）：

大屋 雄裕 慶應義塾大学法学部教授（委員長）
小野 陽子 大妻女子大学データサイエンス学部教授
瀧 俊雄 株式会社マネーフォワード執行役員グループCoPA

中川 正洋 ボストンコンサルティング グループ マネージング・ディレクター & パートナー
村上 将一 株式会社松尾研究所取締役AI開発事業ディレクター

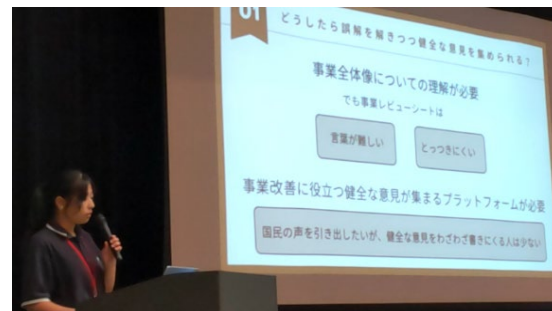
Hack Day（8月30・31日）



（メンタリングの様子）



（会場全景）



（成果発表の様子）

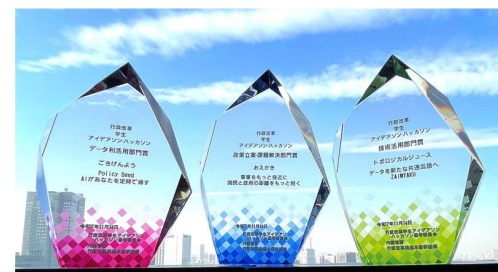
Award Day（11月14日）



（最終成果発表の様子）



（表彰式の様子）



（各部門賞の副賞）

(参考) 行政改革学生アイデアソン・ハッカソン受賞作品一覧

チーム名

おえかき

ごきげんよう

トポロジカルジューズ

政策立案・課題解決部門賞

データ利活用部門賞

技術活用部門賞

作品名・
作品概要

『事業をもっと身近に 国民と政府の
距離をもっと短く』

検索した事業内容を容易に理解でき、
事業に対する意見を政府に直接届け
られるWebサイト「行政事業どない
なってるんやろ図鑑」

『Policy Seed
AIがあなたを定時で帰す』

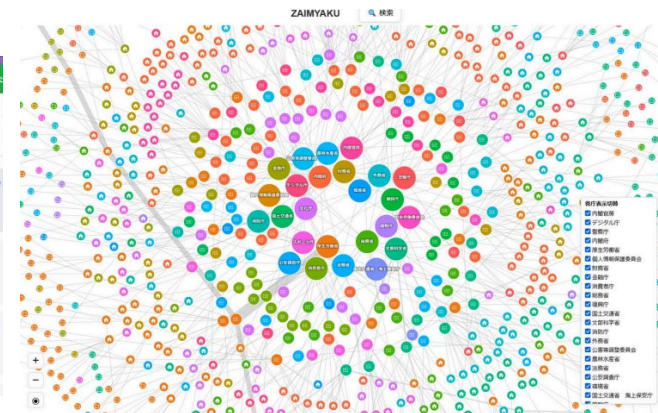
政策立案担当者の業務効率化のため、
過去の類似事業検索や新規事業の
予算予測シミュレーションを行う補助
ツール「Policy Seed」

『データを新たな共通言語へ
ZAIMYAKU』

レビューシートのデータに誰でもアクセス
できるようにするため、視覚的・動的な
グラフで見える化するツール
「ZAIMYAKU」



(「Policy Seed」の画面)



(「ZAIMYAKU」の画面)

(「行政事業どないなってるんやろ図鑑」の画面)

1. 「AI（アイ）プロ」 開始の背景と方向性
2. レビューシートのデータ分析及びAIの利活用等に関する調査研究について
3. 行政事業レビューAIアイデアソン・ハッカソンについて
4. 今後の方向性について

今後の方向性について

AIによる全シート評価から 得られた示唆の活用

■ AIによる更なる分析と課題の抽出・ 解決策の提案

- ・ AIの精度向上に向けて検証ポイントの重みづけ等の検討
- ・ 2024年度シートと2025年度シートの差分抽出、要因の精査
- ・ 課題の抽出、打ち手案の提示

■ AI評価困難な検証ポイントの是非

- ・ 検証ポイントとして採用するかを検討
- ・ シート記載項目・構成の修正検討
(次期RSシステムへの更改時に変更)

行政事業レビューに係る 参考資料のアップデート等

■ 「行政事業レビューシート作成ガイドブック」の改訂

- ・ 「質の定義」の議論を踏まえた不足情報の拡充
- ・ ユーザーに応じて見るべきポイントをわかりやすく提示
- ・ AI導入を見据えた補足資料の整備

■ 測定のポイントの改訂

- ・ 2025年度レビューを踏まえた情報追加

■ 優良シートの特定・横展開

次期RSシステム に向けた対応

■ AI実証・要件定義

- ・ レビューシート等の作成や点検プロセス等におけるAIの活用可能性の実証及び効果検証
- ・ ハッカソンの成果を踏まえ、AIチャットボット導入の検討などを含む次期システムの要件定義

■ データの見える化

- ・ ハッカソンの成果を踏まえ、レビューシート等のデータの見える化に向けた検討

議論いただきたい点

- 行政事業レビュー等におけるデジタル・AIの活用に向けて、今後留意すべき事項は何か？

レビューシート作成等に関するAI実証及び次期RSシステムに関する要件定義等

(行政改革推進本部事務局)

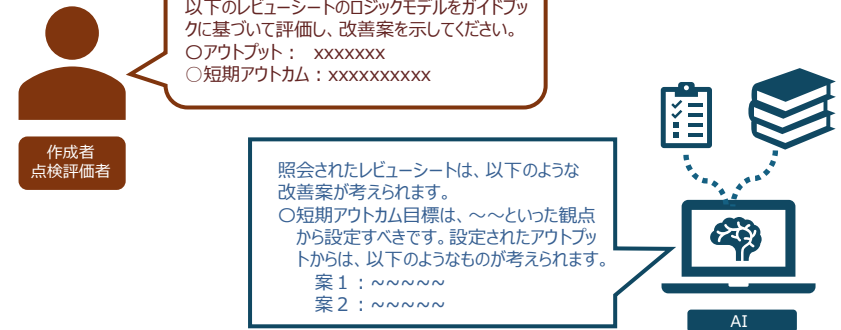
令和7年度補正予算額 3.9億円

事業概要・目的

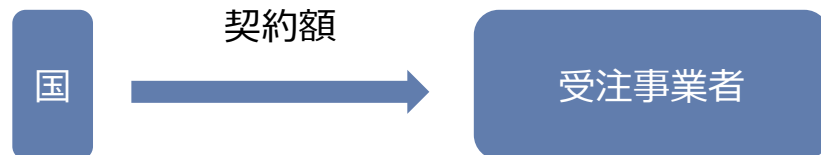
- 表計算ソフトで作成し各省HPで公表していた行政事業レビューシート等を、作成・管理・公開を一元的に行えるように令和6年度よりシステム化し、同年9月に「行政事業レビュー見える化サイト」で一般公開を開始。作成支援機能の改善等のため機能追加を行ってきたところ、令和9年度末のGIMA閉塞等を踏まえ、令和10年度より次期RSシステムへの更改を計画。
- AI技術の進展や利活用に関する環境整備を踏まえ、次期RSシステムでのAI導入を見据え、AIプログラムの精度や導入の効果等について実証を行う。また、実証で得られた成果を反映しつつ、次期RSシステムの要件定義等を実施する。

事業イメージ・具体例

- **AI実証**
レビューシートの作成や点検プロセス等におけるAIの活用可能性の実証及び効果検証等
- **要件定義等**
次期RSシステムの要件定義（AI実証結果の反映を含む。）及び次期RSシステムの設計・開発事業者の調達支援等



資金の流れ



期待される効果

- レビューシート等の質の向上と業務負荷の軽減の両立
- EBPMの更なる推進と行政コストの削減を通じた行政の生産性向上
- レビューシート等のデータの見える化を、より使いやすく、分かりやすく

令和7年1月以降、RSシステムについて主に以下の機能追加を実施。

- 事業検索機能の強化（以下の機能の追加）
 - 支出先検索の詳細化（法人種別、都道府県、法人番号を検索条件に設定可能）
 - 予算事業IDの検索
 - キーワードの複数検索
 - 効果発現経路に係る検索
- 集計・分析機能の強化（以下の機能の追加）
 - 政策・施策を軸にした集計
 - 予算種別を軸にした集計
- 関係者間でレビューシート等を確認する際に、シートの具体的な項目を指定したコメントが可能に